



TITLE:

排尿障害に対する八味地黄丸の使用経験

AUTHOR(S):

黒田, 昌男; 三木, 恒治; 清原, 久和; 宇佐美, 道之; 中村, 隆幸; 中村, 麻瑳男; 古武, 敏彦

CITATION:

黒田, 昌男 ...[et al]. 排尿障害に対する八味地黄丸の使用経験. 泌尿器科紀要 1979, 25(11): 1235-1237

ISSUE DATE:

1979-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/122526>

RIGHT:

排尿障害に対する八味地黄丸の使用経験

大阪府立成人病センター泌尿器科

黒田 昌男・三木 恒治・清原久和・宇佐美道之

中村 隆幸・中村麻嵯男・古武 敏彦

TREATMENT OF DIFFICULTY IN URINATION WITH HACHIMIJIogan

Masao KURODA, Tsuneharu MIKI, Hisakazu KIYOHARA, Michiyuki USAMI,
Takayuki NAKAMURA, Masao NAKAMURA and Toshihiko KOTAKE

From the Department of Urology, the Center for Adult Diseases, Osaka

Tsumura Hachimijiogan, 2.5 g twice a day, was administered to 73 patients who complained of difficulty in urination. 48 patients were diagnosed as benign prostatic hypertrophy, and 25 patients bladder neck contracture.

Effects on subjective symptoms and objective findings were followed up. These symptoms and findings improved in the 25 patients (58%) of the 43 patients of benign prostatic hypertrophy, and in the 15 patients (71%) of the 21 patients of bladder neck contracture.

Totally 63% of the cases were relieved from the subjective symptoms and the objective findings. Serious side effects were not encountered.

緒 言

近年平均寿命の伸びに応じて前立腺肥大症をはじめとする排尿障害をきたす疾患が多くなってきている。その治療として、いろいろな薬物療法が試みられているが、いまだ外科的治療法にまさるものはない。

われわれは今回、前立腺肥大症および膀胱頸部硬化症に「ツムラ八味地黄丸」を投与しその効果を検討した。

対 象

排尿障害、頻尿を訴える73例の男性患者に投与した。対象疾患は前立腺肥大症および膀胱頸部硬化症でのおおの48例(66%)と25例(34%)であった。前立腺肥大症の48例中の12例は膀胱頸部硬化症を合併している症例である。年齢は、44~79歳で40~49歳4例(5%), 50~59歳13例(18%), 60~69歳30例(41%), 70~79歳26例(36%)であり、平均は65.0歳であった。

投与期間は1~48週間で、4週間以上は59例、10週

間以上は32例、20週間以上は15例であった。

使用薬剤と投与方法

ツムラ八味地黄丸エキス顆粒(調剤用) 5g 中に日局ジオウ 6.0g, 日局タクシャ 3.0g, 日局ブクリョウ 3.0g, 日局サンヤク 3.0g, 日局サンシュユ 3.0g, 日局ボタンビ 2.5g, 日局ケイヒ 1.0g, 加工ブシ末 0.5g の割合の混合生薬の乾燥エキス粉末 2.0g 含有する。

ツムラ八味地黄丸を1日2回 朝夕食前30分に1回2.5gを経口投与した。

なお本薬剤は津村順天堂より提供をうけたものである。

成 績

効果判定のために自覚症状、前立腺の直腸診、残尿量、尿流量測定を追跡し、副作用については自覚症状および血液検査を行ない検討した。

1) 自覚症状に対する効果

自覚症状について排尿困難、排尿痛、残尿感、尿線中絶、頻尿、夜間頻尿について検討した(Table 1)。

Table 1. 八味地黄丸の各症状, 検査に対する効果

	症例数	改善	改善なし	不明	有効率	BPH		BNC	
						有効数/無効数	有効率	有効数/無効数	有効率
排尿困難	68	33	26	9	56	21/19	(53)	12/7	(63)
排尿痛	13	9	3	1	75	3/ 3	(50)	6/0	(100)
残尿感	41	19	18	4	51	10/11	(48)	9/7	(56)
尿線中絶	15	10	3	2	77	8/ 3	(73)	2/0	(100)
頻尿	21	10	9	2	53	6/ 8	(43)	4/1	(80)
夜間頻尿	46	26	18	2	59	17/14	(55)	9/4	(69)
尿流量測定	41	12	29	—	29	6/20	(23)	6/9	(40)

(a) 排尿困難

排尿困難を訴える患者は、73例中68例(93%)であった。不明の9例を除く59例中33例に改善がみられ、有効率は56%であった。疾患別では前立腺肥大症は40例中21例(53%), 膀胱頸部硬化症では19例中12例(63%)に改善がみられた。

(b) 排尿痛

排尿痛を訴える患者は13例(18%)であった。不明の1例を除く12例中9例(75%)で改善がみられた。疾患別では前立腺肥大症6例中3例(50%), 膀胱頸部硬化症6例全例に改善がみられた。

(c) 残尿感

残尿感は41例(56%)の患者でみられた。不明の4例を除く37例中19例(51%)に改善がみとめられた。疾患別では前立腺肥大症は21例中10例(48%), 膀胱頸部硬化症は16例中9例(56%)で改善が認められた。

(d) 尿線中絶

尿線中絶は15例(21%)の患者で訴えがあった。不明の2例を除く13例中10例(77%)で改善が認められた。疾患別では前立腺肥大症は11例中8例(73%), 膀胱頸部硬化症は2例ともに改善が認められた。

(e) 頻尿

頻尿を訴えた患者は21例(29%)あった。不明の2例を除く19例中10例(53%)に改善がみられた。疾患別では前立腺肥大症は14例中6例(43%), 膀胱頸部硬化症は5例中4例(80%)に改善が認められた。

(f) 夜間頻尿

夜間頻尿は46例(63%)にみられた。不明の2例を除く44例中26例(59%)に改善がみられた。疾患別では前立腺肥大症31例中17例(55%), 膀胱頸部硬化症13例中9例(69%)に改善が認められた。

2) 他覚所見に対する効果

尿流量測定, 残尿量測定, 前立腺の直腸診, 尿沈渣所見を検討した。

Table 2. 八味地黄丸の副作用

下痢	3例
嘔気・嘔吐	2例
女性乳房	1例
血精液症	1例
発疹	1例
口渴	1例
頭痛	1例
計	10例(13.7%)

(a) 尿流量測定

治療前と治療後に尿流量測定を行なった症例は41例である。排尿パターン, 最大排尿量(ml/sec) 平均排尿量(ml/sec)をあわせて判定すると, 12例(29%)に明らかな改善が認められた。疾患別では前立腺肥大症は26例中6例(23%), 膀胱頸部硬化症は15例中6例(40%)で改善が認められた。

(b) 残尿量

治療前後での残尿量の減少は5例中3例に認められた。そのうち1例では150 mlあった残尿がまったく消失した。

(c) 前立腺の直腸診

前立腺の大ききの縮小は48例中3例(6%)で認められた。

(d) 尿沈渣

7例中6例に化学療法を施行せず尿中白血球数の明らかな減少がみられた。

3) 総合判定 (Table 3)

64例中著効(訴えがまったくあるいはほとんどなくなったもの, 残尿量の著しい減少がみられたもの)5例(8%), 有効(訴えが2項目以上でかなり改善したもの, 他覚的所見に改善がみられたもの)16例(25%), やや有効(自覚症状のみ改善したもの)19例(30%)であり, 無効は24例(38%)であった。著効,

Table 3. 八味地黄丸の効果

	全症例	BPH	BNC
著 効	5例(8%)	2(5%)	3(14%)
有 効	16例(25%)	8(19%)	8(38%)
やや有効	19例(30%)	15(35%)	4(19%)
無 効	24例(38%)	18(42%)	6(29%)
計	64例	43例	21例

有効、やや有効をあわせると有効症例は40例(62%)であった。疾患別では、前立腺肥大症と膀胱頸部硬化症で有効率はそれぞれ58%、71%であった(Table 4)。

Table 4. 八味地黄丸の疾患

	BPH(%)	BNC(%)
有 効	25(58%)	15(71%)
無 効	18(42%)	6(29%)
計	43例	21例

4) 副作用 (Table 2)

自覚的副作用として、下痢3例、嘔気・嘔吐2例、女性乳房1例、血精液症1例、発疹1例、口渴1例、頭痛1例がみられた。64例中10例(16%)に認められた。他覚的にはまったく副作用は認められなかった。

考 察

西洋医学では患者の訴えよりも医師の他覚的診断の結果を重視する傾向がある。漢方医学は西洋医学と異なり、患者の訴えを中心にして脈診、腹診を加味して疾患を「証」という症候群でとらえ、症候群に対して薬を用いる。

「八味地黄丸」は前述のごとき生薬からなっており、その「証」は「腰部および下肢に力がなく、腹部触診上、下腹部が軟弱で臍下正中巾線上に鉛筆の芯状のすじを触知するもの」とある。八味地黄丸の適応症に前立腺肥大症があり、以前より用いられてきた¹⁾。

今回われわれが検討した73例中前立腺肥大症は48例であった。不明の5例を除いた43例中25例(58%)で有効であり、有効率は従来から用いられていたエビブ

ロスタット、セルニルトンなどの生薬とかわらないようである。膀胱頸部硬化症は25例あり、不明の4例を除く21例中15例(71%)で有効あり、膀胱頸部硬化症の方が有効率が高かった。

症状別では、尿線中絶と排尿痛に特に有効であり、有効率はおおよそ77%、75%であった。その他の症状ではすべて50~60%の有効率であった。このように自覚症状ではかなり有効であったが、他覚的所見である尿流量測定および直腸診では改善のみられた症例は少ない。副作用は、下痢3例、嘔気・嘔吐2例と消化器症状が半数を占めたが、女性乳房、血精液症、発疹、口渴、頭痛が各々1例ずつみられている。

「八味地黄丸」の生薬成分の作用を考えると、ジオウ、タクシャ、ブクリョウ、加工ブシ末に利尿作用がある。ジオウ、加工ブシ末には強心作用があり、ジオウ、サンヤク、サンシュユは滋養強壮作用がある。ボタンビは抗炎症作用を有し、鎮静鎮痛、解熱効果がある。ケイヒは発汗解熱健胃剤である²⁾。これらの生薬の作用の相加あるいは相乗効果により、排尿障害に改善がみられると考えられる。

今回のわれわれの使用経験では従来使われている生薬製剤と有効率はあまりかわらないという印象をうけた。副作用は16%でみとめられているが重篤なものはなく、すべて一過性のものであった。

結 語

前立腺肥大症 および 膀胱頸部硬化症73例にツムラ「八味地黄丸」を1日5.0g投与し、その効果を検討した。

前立腺肥大症では58%で有効であり、膀胱頸部硬化症では71%で有効であった。

重篤な副作用はみられなかった。

文 献

- 1) 大塚敬節：症候による漢方治療の実際。第4版，p. 434，南山堂，東京，1977。
- 2) 刈米達夫：和漢生薬。初版，p. 39，広川書店，東京，1974。

(1979年6月4日迅速掲載受付)